

平成 2 7 年度

田原本町教育委員会活動点検評価報告書

(平成 2 6 年度実施事業分)

平成 2 8 年 2 月

田原本町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、平成26年度に田原本町教育委員会が実施した教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の結果について報告します。

平成28年2月17日

田原本町教育委員会

目 次

○はじめに	1
○教育委員会の運営・活動状況	2
○点検・評価項目	
・ 幼児教育の推進	3
・ 小・中学校教育の推進	5
・ 特別支援教育の推進	7
・ 学習体制の充実	9
・ 生涯学習環境の充実	11
・ 図書館事業の充実	13
・ 文化活動の促進	15
・ スポーツに親しむ環境の整備	17
・ スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	19
・ 文化財保護事業	21
・ 唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	23

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、田原本町教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものです。

II 点検・評価の基本方針

1 点検・評価の目的

法改正を受け、町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、住民に公表することといたしました。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「田原本町第3次総合計画」第2章「人が生きいきと輝くまなびのまちづくり」の教育関連施策を点検・評価の対象としました。

点検・評価の対象年度は、平成26年度です。

- (1) 田原本町教育委員会の運営・活動状況
- (2) 「田原本町第3次総合計画」に基づく施策体系ごとの点検・評価(11施策)

3 点検・評価の方法

「田原本町第3次総合計画」に基づく施策体系ごとに、進捗状況の参考となる指標及び実施事務事業の実績を掲載しています。

上記の指標及び実施事務事業の実績を基に、教育委員会で点検・評価を行います。評価にあたっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【点検評価委員】

(敬称略 五十音順)

役 職	氏 名	備 考
委 員	住本 友成	学識経験者(教職経験者)
委 員	平井 洋一	学識経験者(行政経験者)

田原本町教育委員会の運営・活動状況

1 教育委員

(平成27年 3月31日現在)

職名	氏名	職業	就任年月日	任期満了年月日
委員長	後藤田 和子	無職	H21. 3. 2	H27. 9. 21
委員	田部井紀美子	無職	H23. 12. 22	H27. 12. 21
委員	宮本 安男	会社員	H24. 12. 23	H28. 12. 22
委員	森 章浩	団体役員	H21. 12. 24	H29. 12. 23
委員(教育長)	片倉 照彦	公務員	H22. 9. 8	H29. 3. 31

2 教育委員会議の開催状況

- ・教育委員会定例会……10回
- ・教育委員会臨時会……2回

3 教育委員会議の審議状況

- ・報告事項……17件
- ・審議事項……29件

4 教育委員の活動状況

- ・定期学校訪問実施(年1回)……幼稚園5園・小学校5校・中学校2校
- ・幼稚園・小学校・中学校行事への参加……入園式・入学式・運動会・卒園式・卒業式及び各種研究会等
- ・各種研修会への参加……県外研修(兵庫県方面)・近畿市町村教育委員研修大会(京都市)・人権教育各種研究大会・青少年健全育成各種研究大会等
- ・各種行事への参加……成人式等

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	小・中学校教育の推進	総合計画位置づけ	2-1-2
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	児童・生徒及び保護者にとっても、安全で安心できる学校に通学することにより、確かな学力の定着を図るとともに、体力を向上させ、心豊かな人間性を育む。
施策概要	教育環境の整備。職業観や人生観の醸成。教育体制の確立。安心・安全な教育環境の整備。関係機関との連携。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
学校施設の耐震化率	%	95	100	100	100	100
強度を確保している学校施設 (小学校5校・中学校2校)の割合		95				
小学校不登校児童数	人	5	4	4	4	4
1年間に連続して又は断続して30日以上欠席した児童数 (学校基本調査)		11				
中学校不登校生徒数	人	14	12	11	11	11
1年間に連続して又は断続して30日以上欠席した生徒数 (学校基本調査)		16				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
小学校運営事業	教育総務課	89,533	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校施設管理整備事業	教育総務課	77,091	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
学校給食事業	教育総務課	91,208	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校教育振興事業(一部)	教育総務課	8,855	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	647	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校運営事業	教育総務課	40,732	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校施設管理整備事業	教育総務課	25,299	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校教育振興事業(一部)	教育総務課	5,438	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	2,954	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
事務局運営事業(一部)[ALT派遣事業]	教育総務課	7,790	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		349,547			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H28)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H28)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H28)達成が難しい 児童・生徒の学力向上を目指し、基礎・基本の学習に取り組んでいる。引き続き一人ひとりを大切に学習を進めていきたいと考えている。また、耐震化工事に関しては、学校施設耐震化計画によりほぼ順調に工事を施工している。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 児童・生徒が一日の大半を過ごす学校校舎の老朽化対策や食物アレルギー対策をはじめ、地産地消などの食育を推進する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	社会状況の変化に伴い、児童・生徒の規範意識が低くなり、基本的な生活習慣が乱れやすい傾向にある。また、大半の建物が建築後30年以上経過して、施設の老朽化が進行しており、財源の確保が課題となっている。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他(現状の水準を維持する) 児童・生徒が将来を見据え、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、意欲的に学習に取り組むことができるよう教育内容や教育環境の整備に努めて、安心して教育を受けることができる環境を整える。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H26年度 決算 (単位:千円)	H27年度 予算 (単位:千円)	優先性	H28に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	小学校運営事業	89,533	114,980	3 普通	現状のまま
	小学校施設管理整備事業	77,091	77,500	4優先性が高い	現状のまま
	学校給食事業	91,208	86,986	5 最優先	現状のまま
	小学校教育振興事業(一部)	8,855	26,551	3 普通	拡大
	小学校サポート体制支援事業(一部)	647	3,686	3 普通	拡大
	中学校運営事業	40,732	49,564	3 普通	現状のまま
	中学校施設管理整備事業	25,299	12,877	4優先性が高い	縮小
	中学校教育振興事業(一部)	5,348	6,686	3 普通	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業(一部)	2,954	5,948	3 普通	現状のまま
	事務局運営事業(一部)[ALT派遣事業]	7,790	7,790	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	349,457	392,568		
内部評価のコメント	児童・生徒が一日の大半を過ごし、地域の避難所となる学校施設は耐震補強工事の実施により、安心・安全な環境となり、災害時の避難所としての機能も十分に発揮することができる。いじめ・不登校については、目標を下回る形となっており、全教職員での情報の共有・関係機関との効果的な連携などを強化して、指導の徹底を図る必要がある。また、学校給食では、食材の産地を公表し、地場産の野菜を給食に用いるなど地産地消を進めて、美味しく安心・安全な提供に努めている。				
外部評価委員のコメント	地区別将来人口推計なども踏まえながら、学校施設の老朽化対策について取り組んでいただきたい。また、教育環境が多様化するなか、学校と家庭・地域や関係機関等との連携やスクールカウンセラー・支援員の効果的な活用を期待する。学校給食では、食材の安全により一層配慮しながら、地場産の食材を積極的に取り入れ、栄養とバランスの取れた美味しい給食を提供するなど児童の食に関する関心と理解を高めながら、学校から家庭への情報発信も進めていただきたい。また、中学校での給食も実施していただきたい。				

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	特別支援教育の推進	総合計画位置づけ	2-1-3
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害(PDD)などを含めて、障害のある幼児・児童・生徒がいそいそとした学校生活を送る。
施策概要	幼児・児童・生徒に対して個々の発達に応じた適切な教育の推進。就学の支援。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
通級指導教室活用者数	人	10	11	12	12	12
通級指導教室を活用している人数		19				
特別支援教育コーディネーターの学校配置率	%	100	100	100	100	100
特別支援教育コーディネーターの小学校・中学校への配置率		100				
特別支援教育支援員の学校配置率	%	100	100	100	100	100
特別支援教育支援員の小学校・中学校への配置率		100				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額 単位:千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
小学校教育振興事業(一部)	教育総務課	1,024	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校教育振興事業(一部)	教育総務課	184	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	12,113	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	9,929	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	5,608	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		28,858			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H28)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H28)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H28)達成が難しい 特別な支援を必要とする児童・生徒の経済的負担を軽減し、よりよい教育環境を整えることは、学校・保護者ともに需要度が高く、特別支援教育就学奨励費事業は一定の成果をあげている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 近年、特別な支援を必要とする児童・生徒が、町立学校に就学するケースが増加傾向にある。そのため、今後も積極的に特別支援教育を進めていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	特別支援教育では、児童・生徒の個性に応じた教育が必要であり、発達障がいを含む障がいのある子どもたちを適切に支援するため、特別支援教育コーディネーターと特別支援教育支援員の適切な配置に努めるとともに、教育内容の充実・就学に係る費用の援助を必要とする世帯への援助を確実に行っていくことなどより良い支援が実現できる体制が求められている。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他(現状の水準を維持する) 通常学級において個別の支援が必要な児童・生徒や、特別支援学級で個別の指導と支援を必要とする児童・生徒が増加しており、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H26年度 決算 (単位:千円)	H27年度 予算 (単位:千円)	優先性	H28に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	小学校教育振興事業(一部)	1,024	1,632	3 普通	現状のまま
	中学校教育振興事業(一部)	184	431	3 普通	現状のまま
	幼稚園運営事業(一部)	12,113	13,861	3 普通	現状のまま
	小学校サポート体制支援事業(一部)	9,929	9,944	3 普通	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業(一部)	5,608	5,935	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	28,858	31,803		
内部評価のコメント	発達障がいを含む障がいのある子どもたちへの適切な支援が求められているなか、教員の配置基準に基づき、配置されている教師だけでは十分な支援が困難な状況にある。学校現場からは、特別支援教育に対する人員配置の要望が増加しており、特別支援教育の普及奨励を図るため、今後も特別支援教育コーディネーターと特別支援教育支援員の充実に努める。				
外部評価委員のコメント	教育上、特別な支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にあるなかで、児童・生徒や保護者を取り巻く状況や学校へのニーズは複雑化・多様化しており、通級指導教室や特別支援教育支援員を活用して指導・助言を受けられることは、支援体制が充実しており児童・生徒にとって有意義なことである。今後も必要に応じて、特別支援教育支援員等の配置を図り、関係者や関係機関と十分に連携しながら、相談・支援体制の一層の充実に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	学習体制の充実			総合計画位置づけ	2-2-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	学びたい人が学びたい時に学べるよう、様々な学習の機会や情報を提供し、人と人との繋がりを広げるとともに、自己を向上させることで地域・町づくりに繋げる。
施策概要	各種教室・講演会・地区別懇談会などを開催して、様々な学習機会を提供する。また、子どもを対象とする教室を開催する。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
教室の開催数(公民館学習・放課後子ども教室・子ども科学教室等) 年間に開催した教室の数	回	300	300	300	300	300
		399				
子ども文化教室開催数 年間の教室開催回数	回	59	59	59	59	59
		48				
子ども文化教室参加者数 年間の参加者数	人	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
		1,048				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
公民館学習事業	生涯教育課	6,614	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
青少年健全育成推進事業	生涯教育課	9,871	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
人権教育指導事業	生涯教育課	3,929	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		20,414			

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	生涯学習環境の充実			総合計画位置づけ	2-2-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	安全で快適に利用できる施設環境の充実を図ることにより、町民の学習活動が活性化する。
施策概要	田原本青垣生涯学習センターは、生涯学習施設として町民の方々に活用されており、安全・快適に利用できるように、環境整備を行う。また、学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲において、地域住民に開放する。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
公民館の利用件数	回	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
年間の公民館の利用件数		3,967				
学校開放利用件数	件	3,000	3,000	300	3,000	3,000
休日・夜間に小・中学校を住民に開放している年間件数		3,136				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
生涯学習センター管理事業	生涯教育課	93,252	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		93,252			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H28)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H28)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H28)達成が難しい 公民館の利用は多く、目標は達成している。学校開放についても利用度が高い。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 公民館は、町民の生涯学習の場として、多くの方々に利用されており、今後も利用拡大が見込まれることから環境整備に努める必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	青垣生涯学習センターは、建築後10年を経過し、機器の修理をするにも部品がないという状況になってきている。定期的な点検を行ってはいるが、突発的な故障が起こる可能性がある。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () 町民が快適に施設を利用できるよう適切な維持管理を行っていく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H26年度決算	H27年度予算	優先性	H28に向けた経営資源(事業費)の方向性
	生涯学習センター管理事業	93,252	112,238	4優先性が高い	拡大
	[新規]				
	計	93,252	112,238		
内部評価のコメント	来館者・利用者が安全かつ快適に利用できるよう、優先順位を付けた修理や機器の入れ替えを順次行っていく必要がある。				
外部評価委員のコメント	青垣生涯学習センターは、町民が生涯にわたって学習できる施設として優れた機能を持っている。多くの町民の利用を得ているようなので、今後も町民が快適に学習できるよう経費節減に努めながら、維持管理に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	文化活動の促進			総合計画位置づけ	2-2-4
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	弥生の里ホールの利用促進を図り、町民が多様な文化・芸術に触れられる機会を提供する。
施策概要	弥生の里ホールでは、質の高いイベントを開催する。また、文化団体や社会教育関係団体の文化に関わる活動を支援し、日頃の文化活動の発表の場として文化祭を開催する。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
弥生の里ホール利用件数	件	240	240	240	240	240
		年間の利用件数	399			

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
文化活動推進事業	生涯教育課	4,006	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
弥生の里ホール運営事業	生涯教育課	3,318	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		7,324			

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	スポーツに親しむ環境の整備	総合計画位置づけ	2-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	体育施設の維持管理に努め、町民が身近な地域で安全にスポーツが行えるようにする。
施策概要	町民のスポーツ活動の拠点として、各体育館・健民運動場及びテニスコートなどの環境の整備を行う。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
体育館利用件数 中央体育館、やすらぎ体育館 の年間利用件数	件	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
		2,574				
テニスコート利用件数 テニスコートの年間利用件数	件	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
		1,661				
健民運動場利用件数 健民運動場の年間利用件数	件	250	250	250	250	250
		348				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
体育施設管理事業	生涯教育課	27,856	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		27,856			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(H28)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(H28)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(H28)達成が難しい 平成25年度より第一体育館閉鎖により、中央体育館の利用は増している。やすらぎ体育館は昨年度に比べるとやや減少している。テニスコート、健民運動場の利用は増加し、ほぼ目標に到達している。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 施設の老朽化を改善する為、定期的な点検や改修を行い、町民が安全で快適にスポーツができる環境を整える必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	年次的な計画性をもって改修を行う必要がある。

4. 次年度の展開方針(部としての判断)

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () 施設の適正な管理により、町民が安全・快適に体育施設を利用できるように努める。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	H26年度 決算	H27年度 予算	優先性	H28に向けた 経営資源(事業費)の 方向性
	体育施設管理事業	27,856	31,080	3 普通	現状のまま
	[新規]				
	計	27,856	31,080		
内部評価のコメント	優先順位をつけ、順次改修を行う必要がある。				
外部評価委員のコメント	町民が安心してスポーツが行えるよう、各体育館やテニスコートなどの施設の維持管理に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	総合計画位置づけ	2-3-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	-

1. 施策概要

めざす成果目的	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の町民が、多種多様なスポーツに親しめるよう、関係機関と連携し、気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにする。
施策概要	卓球やバドミントンなどのスポーツ教室の開催や春・秋の総合競技大会、町民マラソン・駅伝大会を開催する。また、親子バレーボール大会や歩こう会を開催し、体育協会、スポーツ少年団への助成を行う。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
スポーツ教室開催数	回	250	250	250	250	250
		テニス・ソフトテニス・ジュニアサッカー・バドミントン・卓球等	302			
健康スポーツの集い開催数	回	3	2	2	2	2
		誰でもが参加できる健康スポーツの集いの年間開催回数	2			
健康スポーツの集い参加者数	人	80	60	60	60	60
		健康スポーツの集いの参加者合計人数	49			

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
社会体育振興事業	生涯教育課	4,527	B:普通	A:目標よりも大きな成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
スポーツ教室開催事業	生涯教育課	1,239	B:普通	A:目標よりも大きな成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
春・秋総合競技大会開催事業	生涯教育課	2,224	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
マラソン・駅伝大会開催事業	生涯教育課	729	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
計		8,719			

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	文化財保護事業			総合計画位置づけ	2-4-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名	-

1. 施策概要

めざす 成果目的	文化財保護の精神と認識を深め、国・県指定の有形文化財及び史跡を後世まで貴重な財産として残す。
施策概要	唐古・鍵遺跡と黒田大塚古墳内の公有地の管理及び史跡の現状変更など、進達業務。その他国・県・町指定文化財所有者に防犯、防災の指導。

2. 実施結果

指標名 説明	単 位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
指定文化財等の見回り・点 検回数(回)	回/ 年	36	36	36	36	36
		指定文化財等が適切な状態 であるかの見回り年間回数	54	—	—	—
町文化財指定件数(累計)	件/ 年	7	7	8	8	8
		町が指定する文化財累計件 数	6	—	—	—
			—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
文化財保護事業	文化財保存課	17,453	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地がある が時間が必要
計		17,453			

施策評価シート(対象:H26年度実施施策)

施策名	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	総合計画位置づけ	2-4-2
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	ミュージアムの来館者が快適に観覧でき、満足していただけるようにする。また、文化財に対する理解・愛着を深め、学習意欲・愛護精神を育成する。
施策概要	ミュージアムの適切な管理や受付業務を行う。イベントや企画展、講座などを開催し、情報発信を行う。また、小学校の総合的な学習など学校の支援をする。

2. 実施結果

指標名 説明	単位	H26年度	H27年度	後期基本計画目標 H28年度	H29年度	H30年度
		(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
唐古・鍵考古学ミュージアム入館者数(人) 常設展・企画展の年間入館者数	人/年	7,500	7,500	3,700	5,000	8,000
		9,116	—	—	—	—
総合的な学習 項目別実施回数(回) 町内小学校6年生を対象とした総合的な学習授業項目数の年間合計	回/年	23	23	23	23	23
		27	—	—	—	—
唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページアクセス件数(件) HP年間アクセス件数	件/年	15,000	15,000	15,000	15,000	17,000
		16,063	—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度H26年度)

事務事業名	担当課名	H26年度事業費 (決算額)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法 の点検
唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	文化財保存課	5,521	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		5,521			

